





審査結果報告書

平成 28 年 2 月 2 日

主 査 氏 名 阿古 瑠哉 印 
副 査 氏 名 堀 隆一 印 
副 査 氏 名 石川 均 印 
副 査 氏 名 佐月 信子 印 

1. 申請者氏名 : DM13017 飯島 郁嘉

2. 論文テーマ :

Repeatability, Reproducibility, and Comparability of Subjective and Objective Measurements of Intraocular Forward Scattering in Healthy Subjects.

(正常眼における自覚および他覚的眼内前方散乱の再現性とその比較)

3. 論文審査結果 :

近視眼においては前方散乱が小さいほど、矯正視力が良好であるほどコントラストが良好であり、視機能を考える上で、矯正視力だけでなく前方散乱を測定する重要性が示唆されていた。散乱においては、後方散乱よりも、前方散乱の方が視機能に影響する事も示唆された。臨床の場において前方散乱を定量化することが重要であると考えられていた。

学位申請者は、屈折異常以外に眼疾患を有さない患者を対象とし、市販の前方散乱の測定機器の測定値を検討した。自覚的前方散乱測定器である C-Quant を用いて得たデータと、OQAS を用いて測定した他覚的前方散乱のデータと比較した。両方法とも非常に高い再現性があり臨床的に有用であることが示唆された。また、両者で得られた値の相関は必ずしも良くないことが示された。これは二つの機械での測定の視角等の違いが影響している可能性が考えられた。

学位論文はしっかりとした研究手法に立脚し、新たな知見を見いだしている。疑問点およびそれを解決する手法は臨床的観点からも非常に重要であると考ええる。公開審査では、申請者は副査及び主査からの質問に適切な返答が可能であった。副査及び主査は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから医学博士の学位にふさわしいと判断した。